

SD用アンプは接続すれば音は出る！しかし・・・

S都連研修会用資料

カントリースクエアズ 伊藤 達彦

～SD/RDにおける音響の重要性を再認識しよう～

これまで、SD/RDにおいては、ほとんどがアメリカHilton社のアンプセットを使ってきました。これは、SD・RD用に特別に作られたアンプであるため、レコードプレーヤーやマイクロホン等がコンパクトな1台にまとめられていて、持ち運びにも優れているからです。日本製でも、優秀な機材はたくさんあるでしょうが、私たちのSDダンス等のために活用できる物はほとんど見られません。

しかし、これらの簡便な機材も、「音さえ鳴ればそれでいい。」というような乱暴な考え方で物事を進めてきたばかりに、機材設置の際に大きなケガをする例や、高価なアンプ機材を壊してしまう、さらには大事なダンスそのものがないハメにも陥ったことまであるのですから、もう少し「神経を使う必要」があると思うのです。

音響面での”危機管理意識”の欠如！

1. これまでのトラブル事例に学ぼう！

これから、私が体験したり、その場に立ち会ったりしたトラブルの事例を紹介します。ここから学ぶことが、今のコーラーとしての私を創ってきたと言っても過言ではありません。アンプ機材の知識に詳しくない私でも、「悪い事例やトラブルを起こさない」ぐらいの実践は可能なのです。難しい知識は、あまり必要とはしません！尻込みしないで、まず、ご自分のためと思い、身につけていきましょう。



①Hilton AC-300B型のアンプが加熱してしまった例

6年ぐらい前のパーティーでのこと。アンプが加熱してしまい、パーティーの途中で音が出なくなりました。原因としては、コーラー達の過剰なパワーの上げ過ぎや接続方法にあったと思われる。

対応 FullYakスピーカー1組だったので、Tandem接続に切り替え、スピーカーコードをモニター側端子から音を出した。つまり、アンプからのスピーカー出力端子の「Main」側アンプが故障したので、Tandemにすることによって、使用していなかった「モニター」側アンプからからつないで音を出したもの。

知識1. Hiltonは、左右に1台ずつのプリアンプを持っているのである。

②大きな体育館での2組のスピーカー接続の例

メーカーは同じYakStack社ではあったが、異なるタイプのスピーカーを接続した例があった。1台がDirectorという種類であった。このタイプは、非常に効率が良く、軽い物であったが、すでに製造中止となっている。電気知識に詳しい藤崎氏にこの辺の話をいただくにしても、異なるインピーダンスのスピーカーを接続しても、バランスが悪く、使い物にはならなかった。

③03年夏のコンベンション神戸大会における例

1日目の午後のMS中会場での出来事。和田氏より、「会場の音が変わだよ。ちょっと音を聴きに行ってみよう。」と依頼があった。実行委員ではないが、気になるのかかけつけてみると、まったく雰囲気盛り上がっていない。音楽も、やたらに高音が強調されていて、キンキン言っている。プログラム開始後から、そのまま、ずっとSDを続けてきたらしい。

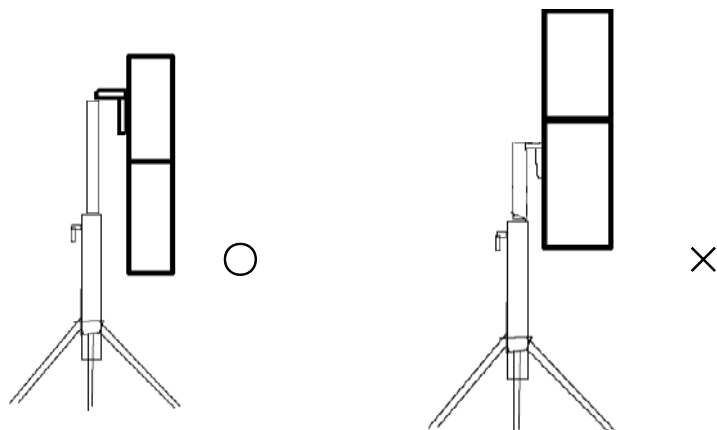
次のコーラーが登壇する合間を縫ってアンプや接続等をチェックしてみた。すると、レコード音量の音質つまみがすべて「高音」になっていて、低音も切られていた。設置の段階から、アンプ機材担当者、MC、コーラーのすべてが、誰も何のチェックもしないまま、延々とスクエアダンスを続けていたのだ。こんな変な音で、不思議にも感じない感性のコーラー達にショックを受けた。

④以前のコンベンション松島大会での例

合同の夜のプログラム会場でのこと。どうにもおかしな音である。踊りが終わってステージの裏へ回ってみる。チェックしてみると、レコード針が曲がったまま。コーラー達は、合同会場のステージに上がっただけで、もうすっかり舞い上がってしまったのか？誰も気づかない。すぐに主催者に言って、レコード針を換えさせた。これまでも、レコード針の欠損はたくさん見てきたが、予備を持っていない例が多かった。ここにも「危機管理意識の欠如！」があるのだ。二重、三重に用意を。

⑤Y a k S t a c kスピーカースタンドは危ない！危険性の認識を！

- A. ほとんどがこのスピーカーを使っている状況だが、このスタンドが危ないのである。倒れやすく、2本の1/2スピーカーを組み合わせて1本にしている上に、スタンドの上げ下げのレバーがクセ者。このレバーにさわってしまって、いきなり重いスピーカーがドーンと落ちてしまったり、金具のステイが外れて、倒してしまった例がある。
ダンサーにケガをさせてしまった例は聞いていないが、傍に人がいたらと思うとゾーッとした例がたくさんある。バランスも崩しやすい設計の悪さである。軽さを取ったためであろう。指の爪をはがしてしまった人も知っている。気を付けて扱おう。
- B. スタンドに吊り下げる方式が逆だった例も多い。「少しでも高くしたかった。」との言葉も主催者から聞かれたが、バランスの悪さにさらに拍車をかけたウルトラ危険度である。



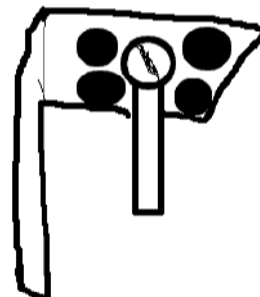
上から吊り下げるのが正しい

下のスピーカー部分にステイをかませた危ない例

知識 2. スピーカーのステイ金具に穴が空いているのは何故だか知っていましたか？
取り付けネジの場所が変えられるのである。角度を変えることによって、スピーカーをチルド式にするためである。

安価で安全性が高く、車に積み込むのにも便利なスタンドの紹介

S協のホームページにも掲載しましたが、1本8,000円と安くて、軽くて、その上安全性が高いのです。自由な高さにはなりません、急に落ちてくることもありません。車のトランクにも横に置いて大丈夫です。Y a k S t a c kのスタンドは、横に置けないぐらいちょっと長いのです。ドイツ製です。成田の「サウンドハウス」で通信販売しています。
(浜松F D・宮本氏からの紹介で購入しました。)





<http://www.soundhouse.co.jp/>

株式会社 サウンドハウス

〒 286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958
TEL 0476-22-9333
FAX 0476-22-9334

⑥. スピーカーコードの特性

コードによって特性が異なってくるのはご存知ですか？マイクケーブルのような丸型で「シールドタイプ」の物より、平型で2本線の効率の良いコードと比べてみてください。アンプの音量ツマミのレベルが相当違ってくるはずです。アンプに負荷をかけない「心遣い」は、これらのちょっとした周辺にも及びます。

⑦. MC (マスター・オブ・セレモニー) の役割は？

各クラブのアニバーサリー等での司会を担当している、いわゆるMCは、どれだけの知識を持っているのでしょうか？MCの本来の役目は、最も優れたパーティーの進行役でなければならないはずです。多くは、コーラー等の紹介だけで終わってしまっているようです。

このMCが、かえってアダになっているケースです。コーラーを紹介して、マイクを渡したら、そのマイクは、音量調節機能のメインの端子に接続していない物を渡してしまったり、前のプログラムでRDのキューアが47回転で踊ったまま、SDのレコードを流したりすることが見受けられます。コーラーもコーラーで、回転数に気が付きもせず、コールをしてしまう人もいます。

さらには、MDを使おうとしたら、せっかくチェックしていたのに、前のコーラーがCDプレーヤーをつなぐために外したまま。マイクケーブルのコードがからまったまま、整理もせずに……。あ～あ。キリがありません。

たくさんの様々なトラブルから学ぶことは多いのに、ちっとも自分のときに活かされてこないのですね。あなたは、如何ですか！

⑧. 大会場でのコーラーの頑張り過ぎ？

「音が割れているよ。」「バリバリ言っているねえ。」などと、私に言ってくるダンサーが多いのです。私がコールしているのではありません。大きな会場でよくあるケースです。

会場が広かったり、大きな体育館だったりすると、こんな調子なのです。これらは、ほとんどコーラーが【会場が広いので、大きな音を出さないと聞こえないだろう。】と言うプレッシャーがそうさせるのでしょう。

残響音が強い構造にしている体育館では、むしろ、レコード音量を上げすぎず、適度に調整して、コールは努めてクリアーに、余計な用語も使わずに、聞き取れるように留意しながらコールをするコツを身につけてほしいものです。

とにかく、ガンガンと音量を上げて、「自分だけ盛り上がりってしまうタイプのコーラー」には、要注意！ アンプも壊れるが、みんなの耳も難聴になっちゃうよ。



速度調整付きMDプレーヤー

⑨ MD等の接続コードの種類もいろいろ!

ヒルトンアンプにもタイプがいろいろあります。
H i l t o n A c - 5 0 0型でも、旧型・新型がある
のですよ。



写真は、500型ですが、
MD等を接続する入力端子
が異なります。発売当初の
タイプは、RCAピンという
赤白ステレオ等で使っている
入力端子となっています。
モノラルです。



Sony MZ-R700

ところが、後継機種は、最近のMDやCD等の機材を接続できるよう
に、ステレオミニプラグとなっています。



これを、モノラルミニでアンプに接続していた
例があり、片方のトラックの音が出ていないの
で困ったことがありました。



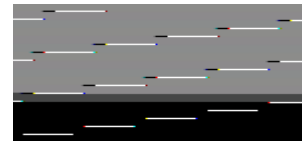
RCAピン

注：アンプ側出力は、あくまでもモノラルになります。

ステレオミニは、切り込み2カ所あり。

モノラルは、1カ所。

左は、モノラルミニ。



AC-205:]
Designed to
auxiliary inp
Carrying we

AC-205型もステレオ入力対応

⑩ 旧型アンプAC-300B型の入力プラグに要注意!

MD等を接続するときは、

- (1) レコードプレーヤーの針のアームの後ろ部分に、標準プラグを挿入する形式になっています。しかし、これがクセ者。このプラグを挿していると、レコードの再生音が出てきません。必ず、使い終わったら抜いておくこと。
(標準プラグは、マイク等の先端に使われている形状の物です。)
- (2) また、当時はあまりこれらの接続機器を使うことがなかったためか、レコードとの音量バランスが悪く、「インラインプースター」というMD等の音を増幅させる機材が必要になってきます。そうしないと、MD等のときに、音量を上げたままで、次にレコードをかけたときに、ものすごい音量となって、ひんしゅくをかうことになる。

※これらの小さなトラブルが大変多いのですよ。

インラインプースターは、川島一典氏が
作ってくれます。



⑩ 東京都体育館メインアリーナでの例

03年3月に行われたS都連ジャンボリーでは、広大な？体育館でのおよそ1,000名のスクエアダンスでした。

2～3,000名は踊れる会場です。

これだけの会場でのSD/RDに関するS都連としての対応が、きちんとなされていませんでした。今回のこの研修会も、そんな準備意識が不足していると感じたため、強く要望して開いていただいたのでした。



ヒルトンアンプ2台（1台は予備のため？）やスピーカーが何組か用意されていました。問題は、ここにありません。

- (1) これらの音響機器に関する担当者が決まっていない。そのため、これほどの大きな大会にも関わらず、機材設置のマニュアル等も無かった。
- (2) 機器運搬のそれぞれの担当者は、機器設置者ではなく、アンプ機材に詳しいわけではないこと。
- (3) それぞれのアンプは、あくまでもそこそこの大きさ？の会場用しか予想していないため、接続コードの長い物やコネクター類がほとんど皆無。
- (4) ゲストコーラーであった私が、ある程度の予想を立て、予備アンプも含め、たくさんのケーブル類や変換用コネクター、ミニコード等を車に積んで行った。予想通り、それでも広大な会場用に4本のスピーカーを接続するための、コード類が足りなかった。私が持っていた長いコードも、しばらく使っていなかったことや、自作段階の技術の未熟さから、接触不良で使えない物が出てきた。
- (5) 設置までに、いくつかの方法でトライし、何とか音が出せたが、大変な思いをした「ビッグ」な会場での経験となった。

※40回横浜大会でも、音響面では非常に大きいクレームをもらい、たくさんの課題を抱えたままとなっている。これからのSDは、増え続けるダンサーの数と、大きな会場での大会が余儀なくなってきました。これらの準備を、いつ、どこで、誰がやってくれるのでしょうか？
組織を挙げて、しっかりとノウハウを蓄積していかなければならない時期に来ているのです！

⑪ 03年10月の東京ジャンボリーでも？・・・

上記で経験した音響機材の重要さが、今回のサブアリーナでも生かされませんでした。「サブアリーナぐらいだから大丈夫だろう。」と思っていたのですが、現実には甘くはありません。

踊っているダンサー達が、次々に「よく聞こえないよ。」とクレームをつけながら踊っているのです。コーラーの未熟さから来る音声の問題ならば、これも仕方ありません。ホールに入って、あれこれ点検してみました。

- (1) まず、ホールの中を、あちこち歩いてみます。音のチェックです。これが肝心なのです。ダンスが始まる前にチェックしただけではいけないのです。誰もいない、ガラーンとしたホールでチェックしたときと、ダンサーが会場を埋めだしたときとは、まったく音の感じが異なってきます。

フロアノイズや人のざわめき、ダンサーの衣裳等の吸収率などなど。

アンプ機材の接続方法のみならず、聞こえにくい箇所のチェックも重要です。スピーカーの位置や向きも確かめてください。

- (2) いろいろチェックしてみたの私の一応の結論を出してみました。

**狭いステージ上に、Full Yakのスピーカーを2本立てていることだ！
狭い範囲で、2本のスピーカーの音が「競合」していると判断しました。**

- (3) そこで、1本をコーラーの近くに寄せて立てた。
(2本ともコーラーより離れて外を向くように立っていた。コーラーもよく聞こえないようで、大きな音量を上げる原因でもあったようだ。)
- (4) もう1本を、ステージから降ろし、音がお互いに、会場の後方でぶつからないように、少し離して立てた。

これだけでもう格段に、ダンサーからもコーラーからも評価されました！



2. 知っておいて損の無いアンプ等機材の知識

① Half Yak と Full Yak の特性の違い

Full Yak を半分に使って、Half Yak として使用すると、最初から Half Yak として購入した物は、特性が異なるそうですよ。Half Yak は、それ1本で高・低音部も持ち合わせている専用の物だそうです。

② アンプ後方部のスピーカー出力付近の録音端子のこと

S 協ホームページにも掲載している、メリーパイオニアーズの若松 茂さんの資料「AC-205型アンプ解体新書」によると、

SIGNAL OUT 「HIGH」 この出力は、LINEにて録音するとき用
音楽と声の両方を一緒に録音できる

SIGNAL OUT 「LOW」 音楽と声の両方を一緒に出せるマイクレベル出力
アンプを2台以上使用するとき用のスレーブアンプ用出力

※MD等へ録音するときは、「HIGH」が良い。

③ **マイクケーブルの先のボリュームコントロール用ミニ端子は、「マイク入力1」の穴から分岐して分けているので、「マイク2」だけに挿入しただけでは、レコード音量は調節できない！**

④ 500型アンプの「NORMAL」は、ノーマル？ではないのだ！

先日の城東SDCのアニバでも見受けられたケース。「そんなに大きいホールではないので、NORMAL 切り替えて良い。」との判断だったそうです。
実は、ヒルトンアンプは、大きな出力パワーを持っているので、小さなホールや自宅等での練習用に、「敢えてパワーを落とす機能の NORMAL」なのだそうです。

パーティー等では、「INCREASED」が良い。わざわざ、パワーのあるアンプに抵抗を咬ませて、落としているので、音の抜けが良くない理由がそこにある。

(尾崎隆敏氏の話から。)

さらには、コーラーがレコードのボリュームを調整するコントロール機能も、手もとのマイク部分のダイヤルを回しても、アップ・ダウンのレベル幅がなく、非常に操作しにくいのである。

⑤ アンプ活用ヒント

- 「205型解体新書」によると、
- (1) コールを聞き取りやすくするためには、「声が、音楽より大きいこと」です。ダンサーが、コーラーの声を大きくすることを求めて来たとき、声がどこでも聞こえる十分な大きさであれば、「本当に必要なのは、声を上げるのではなく、音楽を下げること」です。

(2) 残響音のある会場では・・・

音楽の音量を下げるだけでなく、声の高音部を聞きにくくする音楽の高音部や重低音をカットし、声を音楽より際立たせるために、マイクのトーンコントロールで「ソプラノ」を強調してください。

※ Full Yak を切り離して使う形で、Half Yak にした方が、Full Yak より低音がカットできる理由がここにある。

体育館等での Full Yak では、低音が強調され、「ボコボコ」と低音が効いてしまうようだ。

具体的なスピーカーの接続例は、藤崎氏に説明していただきます。

